



《 例会 》 毎月第2水曜日 19:00~21:00 若松栄町教会 (☎ 0242-27-3944)

2016~2017 年度主題

International President :Joan Wilson (カナダ)
 "Our Future Begins Today" 「私たちの未来は、今日より始まる」
 Asia Area President :Tung Ming Hsian (台湾)
 "Respect Y's Movement" 「ワイズ運動を尊重しよう」
 東日本区理事 利根川恵子 (川越) 「明日に向かって、今日動こう」
 北東部部長 長岡正彦 (もりおか) 「明日のために、いま土台を築こう」
 会津クラブ会長 青山孝男 「明日を楽しく、共に歩もう！」

<No.261 会津通信>
 2017年1月11日発行

会 長 青山孝男
 副会長 高橋真美
 書 記 高橋真人
 会 計 高橋真人

◇1月の聖句◇

乾いたパンの一片しかなくとも平安があればいけにえの肉で家を満たして争うよりよい。

箴言 17 章 1 節

1 月例会プログラム

司会；高橋 真人

- | | |
|---------------------------------------|--------|
| 1. 開 会 点 鐘 | 青山孝男会長 |
| 2. ワイズソング | 一 同 |
| 3. 会長あいさつ | 青山孝男会長 |
| 4. 連 絡・報 告 | 青山孝男会長 |
| 5. 聖句朗読 | 高橋 カツ |
| 6. 食前感謝 | 高橋 カツ |
| 7. 会 食 | |
| 8. 懇 談 | |
| 9. Happy Birthday! Happy Anniversary! | |

あかべこ

- | | |
|-------------|--------|
| 10. 閉 会 点 鐘 | 青山孝男会長 |
|-------------|--------|

「明けましておめでとうございます」

高橋 真美

新しい年を迎えました。本来なら「明けましておめでとうございます」とご挨拶をするのですが、今年はどうしてもその言葉が出てきません。



あの小林一茶の「めでたさも中ぐらいなりおらが春」と似た様な思いでしょうか。いやいや、もしかしたら「門松は冥土のたびの一里塚めでたくもありめでたくもなし」の一休さんの句の方がぴったりかなと少々斜に構えているわたしがいます。ただわたしには「冥土」でなく「天国」なのでしょうけど。

この時代に「いのち」を与えられ生かされてきたことを、改めて感謝し振り返る時「これで良かったのだ」と思うと同時に自分の何処かで「否」と言う声が聞こえてくるのです。

誰が言ったのか「人が時代をつくり、時代が人をつくる」との言葉がわたしの心に刺さります。

「人が時代をつくる」自分の過去を振り返るといつの時

<12月例会出席状況>

在 籍 者 5名 ゲスト 0名
 出 席 者 5名
 *12月例会出席率 100%
 あ か べ こ 5,000 円
 16-17 年度合計 20,000 円

☆ 強い義務感を持つ 義務はすべての権利に伴う。 ☆

代にも、自分としては精一杯生きてきた様に思えるけれど、それがその時代をつくることになったとしたらその責任の重さにたじろがざるを得ない心境です。

真珠の会で「戦争体験を聞く会」を続けています。そして昨年9回目を猪苗代教会を会場に開催しました。いずれもその時代の流れの中で生きる道を選んだの体験談でした。それはその時代をつくるというより、時代の只中で選び取ったもの「時代が人をつくる」のではないかと思います。と同時にひとりの人が自分の判断で自分の将来をきめていく、それは取りも直さず「人が時代をつくる」ことになるのだと、この時改めて知らされました。ひと一人の感性の鋭さ、なにを軸に物事を判断するのか、自分にとっての損得の基準をどこに置くのか、時代の流れに棹をさせるのか等々が「人が時代をつくる」のだと思うのですが、優柔不断な私にとって揺るぎない基準がなければダメだとこの問ひかけの基本を見出したのでした。さてあなたの基準はどこに？今年目標はこれだと定めたとき、やっと「明けておめでとうございます」と言えそうです。

明けておめでとうございます。今年もよろしくお願ひします。(次回は高橋 力さんです)

会津クラブより

「飯館村の母ちゃんたち土ととも」を観て

～笑ってねえど やってらんねえ～

文化センターで上映された後、古居みずえ監督より挨拶をいただいた内容を紹介してみます。

原発をテーマにしていますが、原発事故の後どういうふうにいるかということ、被害に遭われた方に焦点を合わせてその人たちの生き方なり、考え方なり、思

っていることなど日常生活を通して描いたつもりです。

私は運よく菅野栄子さんに会いました。本当に表現力の豊かな方だと思います。私自身、中東のパレスチナで30年近く通って生きていますが、その人たちを伝えようとしても普通の人を中心にその人たちがどんな考えで生きているか焦点を当ててき

ました。栄子さんもその一人なのですが、とても表現力があり人の心を打つことばを持っています。隣にいる芳子さんもとても好きで、二人が最初に長いもを植えるシ

ーンがありますが、そこで二人の性格が出て栄子さんは、「キッキリ植えなければダメだよ！百姓は芸術家なんだから」と言うと、芳子さんは「いい塩梅、いい塩梅」と言って、そのときは対等だったのです。芳子さんが体を悪くされて対等のバランスが崩れたのですが、それでも芳子さんはもう今は働けないのだが、食べるのはできると言って対等にいるという。それがなぜかほほ笑ましくてそれが好きでした。そういう二人を通して世間話をしたり、井戸端会議なりといったところからこの原発の問題の本質が出てくるのではないかと思います。今、飯館村では来年の三月末に帰村を控えております。帰る人、帰らない人と分かれています、皆さん悩んでいます。仮設に居る人、借上げ住宅にいる人も悩んでいます。自分の古里が安全、安心ならば帰りたいと言っています。これからが本当に正念場だと思います。これからも二人を見つめていきたいと思っています。(青山記)

シリーズ：会津の先人たち

【会津若松市 HP より】

幼児教育・女子教育の先覚者

海老名 リン (えびな りん) (1849～1909)

最初の幼稚園

明治26年(1893)まだ若松町であった会津若松市は、戊辰(ぼしん)の敗戦の影が残り、近代化を模索していました。身分制度が廃止されたとは言え、女性の社会的地位は低く、封建的な考えが色濃く残っていました。この年、最初の幼稚園「私立若松幼稚園」が、旧甲賀町(現在の市役所栄町第一庁舎)に、園児8人で開園しました。また、その片隅に「私立若松女学校」が創立され、会津女子高校の前身となりました。

海老名リンは、この創立に力を尽くし、会津の幼児教育、女子教育の礎(いしずえ)となりました。

会津藩家老の妻

リンは、嘉永2年(1849)旧小田垣(現在の城東町)で会津藩士の二女に生まれ、17歳で海老名季昌(すえまさ)と結婚しました。

季昌は、戊辰戦争で家老を務め、敗戦後、東京で謹慎を命じられています。リンは、旧藩士の家族と共に下北半島「斗南(となみ)藩」へ移住し、日々の食べ物にも事欠く、苦難の生活を強いられました。

季昌は、謹慎を許されると、一次青森県に務めますが、再上京し、間もなくリンと家族も上京しました。

◆ 今後の予定 ◆

- ◇ 2月例会 2月8日午後7時～
TOF例会
- ◇ ユニークダンス例会
1月～2月は休みで



